

「看護医療総合」 6月7日

2030 未来への分岐点 (4) “神の領域” への挑戦～ゲノムテクノロジーの光と影～ (2021. 6. 6 NHK 放送)



●ゲノムテクノロジーについて問題視されていることは倫理的議論なしにテクノロジーが急速に発展している点だと思います。国内にとどまらず世界中の問題であり、特定の人や集団のみで規則や規定を決めたり、境界線を引くことはするべきではないと思いました。特にデザイナーベビーは、助産師さんのお話にもあった通り、倫理が欠如していると思います。テレビでは両親の同意があれば可能という設定で未来のお話が進められていましたが、両親が了承したからといって行って良い行為ではないのではないかと思います。命は授かるものであり、その中にはダウン症や手足欠損など色々な障がいがあるかと思いますが、決して

命をつくるなどしてはならないと思いました。つくった命は同様に壊すことができると仰っていましたが、その通りだと思いました。命を壊すということは、仮に自分の思い描いた特徴でない赤ちゃんが生まれてきたときに、殺してもう一度新しい命をつくるということだと捉えました。そのようなことをしてしまうと、ひとつの神秘的な命が粗末に扱われ、命の価値が薄まり、次第に殺人が当たり前になったり、犯罪やモラルに欠けた人間性の人が増える可能性があると考えました。中絶するにも、命の選別だと問題視されているこの現状で、デザイナーベビーなどまだまだ議論が追いついていないと思います。命を軽く扱ってしまう世界になる可能性もあることを知り、あってはならないと思うと同時に止めるにはどうすれば良いか考える必要があると思いました。

ゲノムテクノロジーは私たちにとって理想的な人生を送ることを手助けできるものかもしれません。しかし、化学的で生物的な力を借りて理想的な人生設計をし、確実に思いどおりになる世界は決して楽しいものではないと思います。たくさんの葛藤や苦勞を重ねるからこそ得られるものがあると思います。ゲノムテクノロジーが進化し導入されることが当たり前の世界に幸せはないのではないかと思います。

●ゲノムテクノロジーについてのNHKの動画を見ました。ゲノムテクノロジーの進化により、よりよく生きたいと言う人のために願いを叶えてくれるかもしれないということを知り、驚きました。様々な国でゲノムを一から合成し人工的に作り出せる時代がやってきました。新型コロナウイルスでは、マウスの遺伝子の1部を人間のものに変え、コロナに感染すると言います。そして、そのマウスを利用してワクチンを開発しており、たくさんの国に送っているそうです。また、他の生物の体の中で人間の臓器を作り出し、臓器提供を支えることも行われています。しかし、使い方を間違えれば大変なことになります。逮捕されてしまいましたが、人間の受精卵をゲノム編集し、エイズになりにくい双子を誕生させた研究者もいます。デザイナーベビーと言って親が理想とする子ども健康優良児を作り出せることができ、臓器の取り替えも行えますが、ほかの生命の犠牲と引き換えに人間が命を伸ばし、操れるということです。そして、ゲノムテクノロジーが暴走した未来には差別や格差が生まれると思います。ゲノム情報を操作できるのは裕福な家庭だけです。未来では、すべてゲノムの情報だけで判断するようになります。そうすれば、能力が低いとみなされ、職が失われてしまいます。未来の世界ではますます追い詰められてしまいます。だから、ゲノム情報の先に本当の幸せが待っているとは言いきれないと思います。私たちが人間の命を操る資格はないと考えます。当たり前のようにある命を大切に、向き合っていくことが大切だと感じました。

